

だんご焼き

豊小・6 阿部 巧

ぼくは、夏休みにおじいちゃんの家にとまりに行きました。ぼくのおじいちゃんは、道の駅の駅長さんをやっています。ぼくはおじいちゃんに

「だんご焼きに行くか？」

と聞かれて

「行きたい！」

と言つて、連れて行ってもらうことになりました。そしてぼくは、おじいちゃんのだんご焼きを手伝うことになりました。でもぼくは初めて焼くので、とてもきんちようしていました。

まず、だんごの焼き方をおじいちゃんに教えてもらいました。

「少しこげてふつくらふくらんでいるだんごは焼けているよ。」

と言われました。次に焼けただんごを

「たれにからませて、パックにつめるだよ。」

と教えてもらいました。初めてなので、お客さんの接客もきんちようしました。最初はおじいちゃんが接客をしていたけれど、おじいちゃんは駐車場の整理もあつたので、ぼくが一人になつてしまうことがあります。その時はぼくが一人で接客をしなければいけないのです。ぼくは、「お客さんが来ませんように。」と心の中で思いました。けれど、

「だんご十本、五平もち十本。」

と注文が入りました。ぼくは「急いでだんごを焼かないと足りないな。」と思いました。だんごをふつくら焼き、こげないように意識して焼きました。

そうしていたら、お客さんがまた来て、五平もちの注文が入りました。五平もちはお店の中で作っているのです、おじいちゃんに持ちに行ってもらつて、先のお客さんの商品を渡し、代金を計算してお金を受け取りました。大きな声で、

「ありがとうございます。」

と言いました。するとお客さんが笑顔で、

「がんばってね。」

と言つてくれました。お客さんはほかにも

「すごいね。」

「ごちそうさまでした。」

と言つて、ほめてくれたので、うれしくてやる気が出ました。たくさんのお客さんが次から次へと来てくれました。その中には

「暑くて大変だね。がんばってね。」

と言つて、飲み物をくれるお客さんもいました。ぼくは「暑いけどがんばろう。」と思いました。けれど、暑い中、熱いだんごを焼くのです。なのですぐ汗だくでした。ただどお店のおばさんが

「暑い中、ご苦労さま。」

と言つて、かき氷をさし入れてくれました。そのかき氷をもらつてとてもうれしかったです。

忙しい時間が過ぎ、一息つく食堂の方がお昼ご飯を出してくれました。閉店の時間も近くなり、焼いただんごが約百五十本、五平もちが約百本売れました。とても暑くて忙しくて、へろへろになり

ましたが、無事に終われてよかったです。おじいちゃんに、

「すごく助かった。ありがとう。」

と、感謝の言葉をもらい、とてもうれしかったです。

ぼくは、この夏休みにきちょうな経験ができてとてもうれしかったです。夏休みの予定では、泊まりに行くだけだったのが、これまで苦手だったコミュニケーションを取れるようになりました。コミュニケーションはとても難しかったです。相手にどう伝えればいいのか、どうしたらうまくまとまった文を言えるのか、よく分かりません。他人とのコミュニケーションはさらに難しくなります。でもあまり深く考えるときやべれなくなるので、そこまで意識せずにコミュニケーションをとってみたいです。またこういうお店で手伝える機会があれば手伝いたいです。ほんとうに充実した日々を送れてよかったです。大人になってもこの経験から人に優しく、みんなに頼られるべくでいたいです。

「ありがとう。」

と、たくさん感謝をいろんな人に伝えられるようにこれからも勉強もコミュニケーションもがんばっていきたいと思います。

最後に一週間、おじいちゃんやおばあちゃんにお世話になったことを感謝します。本当にありがとうございました。